

## 二 トカゲのしっぽ

ある日の朝のことです。お庭であそんでいたタツくんは、足もとで何かがちよろちよろと動くのを見つけました。

「あっ、トカゲだ！」

タツくんは、生きものが大きいです。すぐに手をのばしてトカゲをつかまえました。

すると、どうでしょう。せつかく、つかんだトカゲのしっぽが、ねもとからプツンツンととれてしまいました。

「うわあっ、これなんだ？」

タツくんは、びっくりしました。トカゲの頭のほうは、すぐに草むらにかくれて見えなくなってしまったのに、手のひらの中でしっぽだけがくねくねとうごいています。

タツくんは、さっそくトカゲのしっぽを虫かごに入れました。うごいているのだから、きっとこれも生きものにちがいありません。

でも、何を食べるのかわからなかったから、玄関でかっている金魚のえさを虫かごに入れてみました。それから、ごはんつぶを入れてみたり、冷蔵庫にあったバナナを少しだけちぎって入れてみたりしました。

けれども、トカゲのしっぽは何も食べてくれません。そのうち、だんだん動きかたがよわくなり、とうとう、しっぽは、ピタリととまってしまいました。

「トカゲのしっぽ、死んじゃった」

タツくんが悲しくなって泣きたすと、台所にいたお母さんがやってきて「どうしたの？」とたずねました。タツくんがトカゲのしっぽの話をする、お母さんは、にっこりと笑って、「それならだいじょうぶ。トカゲは、危険をかんじると自分でしっぽを切りはなすことができるのよ」と教えてくれました。

タツくんは、それを聞いて、とてもほっとしました。そして、思いました。

くねくね動くトカゲのしっぽ。ミミズみたいなトカゲのしっぽ。ぼくも、あんなしっぽがほしいな。きっと、すてきにちがいないよ！って。